# 横浜市における看護教育の歴史について

神奈川県に於ける看護教育は戦後、GHQ の要請のもと　看護婦制度の大改革に基づいて　相模原、日赤、久里浜の3校で行われていました。横浜市としても社会のニーズに答え病院附属でない横浜市独自の看護学校を設立したいと言う機運から　市衛生局が設置主体となり昭和 27 年（1952）9 月横浜市立看護婦養成所を創立、定員 15 名で開校されました。

始めての横浜市立の看護学校と言う事もあって　基礎、臨床医学の講師はすべて市立大学の教授によって行われました。翌 28 年（1953）校名は横浜市立高等看護学院と改名されましたが、各種学校である事に変わりなく高度の医療に対応し　病める人々のニーズに応えられる　高いレベルの専門性をもった看護師を育てる看護教育の必要上　短期大学昇進を願って同窓会、後援会で市当局へ陳情を続けてまいりました。（1 期卒業生）

私は昭和 36 年（1961）専任教員、昭和 44 年（1969）より教務主任として就任いたしました。当時　医療の高度化、国民医療に対する意識の変化、更には超高齢化社会の在宅医療の支援など問題は多く　これらに対する看護師の基礎教育はこれでよいのかと悩む日々が続きました。

昭和 46 年（1971）時代の推移と共に横浜市の医療の将来構想の中　新

病院の開設、増改築よる増床計画の中での　看護師の確保、卒業生の定着など行政上の検討が重ねられました。

横浜市民の医療の需要に応える対策として　高等看護学院第1看護科(3年課程)と第2看護科（2年課程）を3年課程に一本化して　衛生局所管から市立大学局に移行。校舎も新築され横浜市立大学附属高等看護学校に改称されると言う大きな組織改革が行われました。

それに併って看護の魅力は実践教育にある事の観点から専門的研鑽を積んだ人材の確保をいたしました。更にチーム医療の発展と高度化それに対応し得る高い専門性と豊かな人間性をもつ看護師としての人材養成の必要上　看護教育も大学レベルでしっかり学ぶ事が重要と短期大学促進委員会を設立。後援会長中心に毎年市当局に陳情を重ねた結果　平成7年（1995）横浜市立大学看護短期大学部が開講され、更に平成10年(1998)横浜市立大学医学部看護学科に変遷。平成19年(2007)には4年制に昇格、平成23年（2011）には大学院への入学も行なわれる様になりました。

この様な経過をたどって現在卒業生は横浜市における医療の人的財産であり、市内の医療機関はもとより　全国各地域医療の担い手、看護界の指導者として広く重要な足跡を残している事はすばらしいことです。

この間　私は大きな時代の変化、医学の進歩、看護教育の変遷のうね

りの中でその目的に向かって 30 年間献身的に努力をしてまいりましたが　これも偏に横浜市並びに横浜市立大学局諸先生方の　限りないご尽力とご訓育のたまものと深く感謝申し上げております。

ここに横浜市立大学百年史発刊にあたりお喜びと今後のますますのご発展を祈念申し上げ筆をおきます。　　有難うございました。

## ◎未来の横浜市立大学を担う学生、教職員にメッセージ

人として今何が大切か、何をなすべきかを考え　感謝の心で有意義な人生を送って頂くことを望んでいます。

元横浜市立大学医学部附属高等看護学校
第１看護科教務主任　仲尾　深雪